

実況中継「土曜講座」

第8号

2026年9月14日発行

市川学園 9月5日の土曜講座 於 北館 1F 多目的ホール

深尾浩紹先生

AI 時代における世界が求める人になるために

10年後の自分を変える「思考法」と「挑戦する力」



深尾浩紹先生のご紹介

大学卒業後、株式会社リクルートに入社。

1995年 Arthur D. Little, Inc 入社、コンサルタント。

2002年 TIAX, LLC 入社、シニア・テクノロジスト。

12年間、主に欧米企業、米国政府機関を中心に多彩な領域の戦略立案及び技術分析等の経営・技術コンサルティングを手掛けた。

2007年7月 日本に帰国後、富士ソフト株式会社に入社、国際部創設、国際事業企画室、室長（部長）。

2013年 株式会社ヴィンクスに入社、アジア事業戦略立案を中心に現在に至る。ビジネス・ブレークスルー大学院大学教授

主な講義内容の紹介

2026年9月の土曜講座は、米国企業のコンサルタント等でご活躍、ビジネス・ブレークスルー大学院大学教授の深尾先生による「AI 時代における世界が求める人になるために」という講演でした。

オープンAI が開発した、最新型 ChatGPT-6「ATLAS」がリリースされました。人間がプロンプト（言語でAI に指示を出すこと）をせずとも、AI 自身が察してアウトプットするという時代がいよいよ到来します。2030年代にはシンギュラリティ（AI が人知を超えること）がおとずれのだろうとの予測をはるかに上回る速さでAI が発達しています。口頭の指示だけで3D ロケットが完成してしまう、という「奇跡」の時代、まさに時代の変曲点が「今」来ようとしているのです。

「AI ネイティブ」と言われる現在の中高生がどのような課題をもつべきなのでしょうか。確かに、AI が人間を超えることに「怖さ」を感じる人もいるとは思いますが、今後はいかにAI と共存するか、「使われる側」になるのではなく、わくわくしながら「使う側」になろう、そのために、変化が続く世の中を常に学び続けることが大切であり、「問いを立てる力」と教養を学ぶことで磨き続けることが大切、というお言葉が印象的でした。自分の人生は意外と短い、興味を持ったことについては躊躇せず取り組むことで充実した人生を送りたいですね。

受講レポートから

- AI についての基本情報を知ることができた。日本がかかえるAI 課題との向き合い方と、自分で新しいことを生み出し、自分の失敗を残念に思うのではなく、なぜそれが起きたかを考える心構えについて知ることができてよかった。（中1男子）
- 日本人がロジック、論理的思考が足りないというのはかなり納得できた。現在必要なことは、知識はもちろん、好奇心や問いを立てる能力が重要であると思った。私も24時間以内に調べる・AI を利用する・誰かに相談するなどを実行したいと思う。これから自分のやりたいことを見つけるためにAI をうまく使いこなそうと思う。AI の進化を恐れていたが、「敵」ではなく、能力を拡張する「パートナー」ということを理解した。ASTRA もぜひ活用したい。「奇跡の時代」にAI を使わないのはもったいない。AI コンサル職についても興味を持った。（中2女子）



・「インターネット」という過去の大きな変曲点の例を示していたが、それは「インターネット」という成功例に注目しているからであって、過去には期待されながら失敗した技術も多いため、AI についても大成功を期待しつつ「絶対に」AI が成功し時代が変わるとは限らないのではないかと。さらにAI によるコンピュータの自律操作はセキュリティリスクや現実のリスクも高いため、これまでのチャットAI などと比べて

普及は遅くなるのではないかと。また、プログラミングについても、プログラムの内容を理解し、正しいことを確認し、そのプログラムの責任を負うという点で人間のプログラマーが必要なことも言うまでもない。全体的にAI に対しては過度な熱狂が多く、それが「熱狂」なのか本当に「AI の価値」なのかを判断する力が必要になるのではないかと。（中3男子）

- 今までの機械やAI について、ご自身の体験や見解を合わせてお話しくださり、現在の「当たり前」が35年前には夢にも思わないことだったことがよくわかった。どんどん進化するAI の変曲点である現在、新しいバージョンについてゆき、少しでも試してみて学び続ける姿勢が大切だと感じた。また、インターネットの広がりによって、視野の広がりが世界にまで拡大したら、英語も知っておくことが大切とのことで、私も努力したいと思う。また、「人生は短いので、悔いのないように生きる。やらない理由を探すのではなく、やる理由をさがしてとにかく挑戦してみる」というお話を聞いて、大人になる準備期間である高校生のうちに、自分の好きなことを深め、初めてのことにも挑戦したいと思った。（高1女子）
- 現在の最先端のAI 事情を知って衝撃を受けた。2027年には人間と同じ能力を得ると知って面白そうという気持ちの一方、恐ろしい気持ちもあった。先生は最後に「無限の可能性を信じる」とおっしゃっており、その中でも強い思いがあれば、人・モノ・金がついてくるとおっしゃり、自分は他人と比べ、行動にすぐに移すことが苦手なので、そのような強い思いを持つこと、また、自分の人生を生きるという他人に影響されないで自分で考え、決めたらすぐ行動したいと思う。そして、10年後自分の望ましい自分になれるようにしたい。（高2男子）



（文責：武井 大輔 先生）